令和６年度第２回柏市学校教育情報化有識者会議会議録

１　開催日時
令和６年１１月２５日（月）
午前１０時から午前１１時３７分まで

２　開催場所
柏市役所沼南庁舎５階 大会議室

３　出席者
(1) 委員
毛利座長，小田委員，佐和委員，逆井委員，左口委員
(2) 事務局
平野指導課長，宮本副参事，荒川統括リーダー，加藤副主幹，丸山副主幹，石塚副主幹，福西副主幹，湯浅主査，白石主事，田中 IT 教育支援アドバイザー

４ 協議内容
(1) 目指す姿について
〇小田委員
すごくわかりやすくまとめられていると感じました。
これからの時代に活躍する人材というところで，このままでいいと思うんですけれども，生成 AI といったものをどのように入れていくのかっていうところ。こちらについても意欲的に取り組む必要があるのかなというふうに思っております。
また教員研修の場ということで，研修の機会と，優良実践の周知ということですけれども，もしかしたら，この後の議論に関わってくるかもしれないですけれども，研修のあり方自体ももっと多様にしていくということも一つ挙げられるのかなというふうに感じました。
単純に場に集まって研修を受けるという，それだけではなくてツールの使い方みたいなものであればこの場に集まれなかったとしても，例えば Google Spaces みたいなものを使って Q&A で必要な時に情報を流していくですとかいつでもビデオで見られるなど，集まらなくても常に情報を得られるようなそういうこともすべて研修として捉えて，指導に生かせるような機会を広げるということも一つあり得るかなというふうに感じました。

〇佐和委員
この後の議論の内容になると思うんですけれども，ここに出ている教育 DX の捉え方が曖昧なんじゃないかなっていうふうに思っていて，ここに書かれているようなものも DX だと思うんですが，具体的に言うと，GIGA スクール構想でハードを整備するとか，それから紙のものをデジタルに置き換えるというのは，これは教育のデジタル化ですね。
それから，記録をデジタル化していくとか，授業準備を効率化してファイルを共有するなども，デジタル化なんですけどもここで終わっているというかですね，教育委員会や学校が校務やセキュリティ上でデジタル化を図るという発想でやっているとすると，もう一つは，本来はこれは児童・生徒も教育 DX されていくということですよね。
学習の場が DX 化されていくというところが見えにくいかなと思っています。
こういうことを図ることで最終的には，個性に合った学びが実現されていくということが最終的なゴールに繋がっていくと思うので，具体はこれからの話になると思うんですけど，そこのところについて少し感想というか疑問を持ちました。

〇逆井委員
目指す児童・生徒像というところからですね。

それを育むための教員学校の姿ということで，よくまとめられてるのかなと思いました。
その中で学校のところで学習指導・校務・研修の相似系の中で進める体制づくりというもあるんですけれども，ちょっとわかりにくいというか，言ってることの意義が捉えにくいのかなという。
相似系の中でという表現を，どういうふうに解釈をして，これを読んだ人が，もうちょっと明確にわかるような表現の方がいいんじゃないのかなというふうに感じました。

〇左口委員
前回話があったようにこの大きな目指す姿のところから，それぞれ教員・学校の方に下ろしていくということで，この大きな目標の中でまた細かい具体的な部分で正直，学校現場を見ていると，教員の中で，まだまだこの目指す姿もそうですし，実際教員の中で使う ICT 等は限られているので，教員だけじゃなく，社会に出てどういったものが必要かっていうもの，具体的なものも研修をしていく必要があるなと感じているので，研修の部分なんかも，より具体的に出てくるとありがたいなというふうに考えております。

〇毛利座長
例えば教員のところのこれからの時代の指導力とは，ということでここには Society5.0 を見据えて，そこで必要な力を身に着けさせるというのが，裏にありますということなんですけど，そうであるならば，この中にそういうのを盛り込んだ方がいいのかな，何か見ようによっては，せっかくいいものなのに，児童・生徒と学校は，教育 DX のことを明記されていて教員はされてないから，教員はやらなくてもいいのかなみたいに，変に誤解されるといけないという気がします。
やはりその児童生徒のところで，これからの柏をつくり牽引する児童・生徒って書いてありますけども，ここに住んでいる子供たちはもちろん，柏市を活性化することに頑張る生徒もいるでしょうし，もしかしたら，日本のリーダーや世界のリーダーになって，それで総じて，世界が平和で豊かになれば，ひいては柏市の発展にも貢献するみたいね，あまり小さくではなくて，もっと大きなことでもいいのかなと思います。
先ほど柏市は ICT 教育を先導的に行ってきたっていうお話がありました。まさにその通りなので，あまり謙遜しなくてもいいのかなっていう気がしました。
意見なので，特に回答は不要ですが，ぜひ反映していただければと思います。

(2) 基本的な方針及び KGI，KPI について
〇左口委員
KPI とか KGI の目標についてというよりは，本校の場合は高校なので，以前にこの小中での学びに少し差が出てきているかなっていう話をさせていただいたんですが，そのことについて取り込んでいただいて，小中高校の繋がりという部分で，こういう情報教育をする上で，そこの連携が図られるということは非常にありがたいなというふうに感じています。
できれば小中の方にも高校の情報Ⅰでこういったことを学び，それが，共通テストの中でも反映されてくるという部分で，共通の認識を持ってもらえることで，小中の時代に，こういった学びをしておくことが必要になってくるんだということを，意識してそこの目標に向かってやっていただけると，高校としては非常に助かるなというふうに感じているので，ちょっとそこの連携についてはぜひ情報共有含め，研修も含め，これから進めていただきたいなというふうに感じています。
あとそれ以外の目標値については前回 100%に設定した場合はどうだろうとかっていう話は，できたとは思うのですが，基本的に 80%・100%という目標で進めていくことになると思うので，数値的にどうなのかっていうのはちょっと何とも言えないのですが，ただ，まずは目標ですので，そこに向けて努力していくというところで，この形で進めてもらえればい

いのかなというふうに考えております。

○逆井委員
　いろいろ育成・充実ということで項目挙げてあるのですけども，情報活用能力の育成ということで挙がっておってですね，体系表に基づいてということで各学校でのカリキュラムマネジメントを推進するということで，多分これが初めてということではなくて，これまでもこういう方針でやってきたのではないかなというふうに思うのですが，なかなか学校独自でですねこれを進めていくっていうのはちょっと難しい面があったというふうに今までの取り組みの中で，学校現場としては感じてきていて，カリキュラムの体系表はあるんだけれども実際に具体的にどの場面でどういうふうに取り組んでいくんだろうか，あるいは，学校の誰がやっていくんだろうかみたいなことが，なかなか学校として決められない部分があって，一生懸命にこの体系表に基づいて取り組む学校もあればですね，なかなか手がつかないという学校もあったんじゃないかなというふうに感じております。
　同じように情報モラル教育ということも，重要性は重々学校現場として認識をしておるんですけれども，どのコンテンツを使って継続的にやっていくのかっていうのも，ほぼ学校現場に任されている状況があるんですけど，なかなかこの専門的なノウハウを持っている教員というのは，そんなに学校現場の中に多くいるわけではありませんので，情報モラルと系統立てて扱っていくかっていうことをある程度示していただくであるとか，そういったことも，必要になってくるのかなというふうに思います。
　あと KGI・KPI のことなんですけれども，KPI は令和 8 年度で 80%，全項目ですね。
　とりあえず 2 年間でここまで達成をしてここで成果と課題を分析して 100%を達成するにはどうしたらいいのかっていう，そういう意図なのかなあというふうに見て取れるんですけど，それでいいでしょうか。

○事務局
　はい，おっしゃる通りです。令和 9 年度に次期の学習指導要領の改訂等も踏まえて計画の見直し改善を図っていくというふうにしておりますので，おっしゃる通り令和 8 年度で一旦評価をいたしまして，さらに令和 11 年度計画の最終年度になりますので，こちらで 100%達成できるように見直していきたいというふうに考えております。

○逆井委員
　前回の時にも私は 8 割ぐらいがとりあえずいいんじゃないかなって話をさせていただいたのですけれども，こうやって 80%が全部載ってくると、これでいいのかなと。ちょっとここまで並んじゃうとそういう気もするんですけど，現状がどのぐらい達成しているからこの項目はないわけですよね。

○事務局
　今調査の内容として質問の中身が若干変わっていますので，現状としてはまだ捉えることができないという状況になります。

○逆井委員
　現状どのぐらいいってて，あとどのぐらい努力が必要なのかっていう，確認をしていかないと，80%を達成させるためには何が必要なんだろうかという具体が見えてこないような気がするのでもう少し現状分析も加えていく必要が，あるんじゃないかなというふうに思います。
　分析できればもうすでに 8 割達成できてる項目があるんではないかと思いますので，そういったところは，8 割じゃなくて，もう少し上げていくであるとか，とりあえずは，ここは取り組まずにっていう考え方もできるかと思うんですが，達成してるところがですね，その

辺少し考えてみてもいいのかなというふうに思いました。

○佐和委員
　最初に教職員の ICT 活用指導力向上の KPI ですけど，週に 2・3 回または毎日っていう，結構幅が広いと思うんですけど何か意図があるんでしょうか。

○事務局
　週 2 回以上活用頻度が毎日ではなく，2 回から 3 回というふうに，毎日ではないけれども，週の中でもある程度活用しているっていうところで「または」という表現にさせていただいております。

○佐和委員
　小学校だったらほぼ毎日でいいと思うんですが，例えば講師によって教科等が関係しているのかなという気もしたので，どういう表記がいいのかなということはちょっと思いました。
　それから，さっきお話した教育 DX のとこなんですが，やっぱりここは，最終的に子供の姿の変容というのを求めたほうがいいのかなと個人的には思います。
　デジタル教材の活用推進というのは，これ個別最適な学びで教育 DX を図るというと，指導の個別化，いわゆるデジタルドリル等を使うことが教育 DX だっていうふうに思いがちで，それはそれでいいんだろうけれども，もう一つは学習の個性化というのが，まずあるんですよね。
　子供が課題を持ってそれを解決していくときに，デジタル学習基盤を使っていくはずで，そういう学習に見られるのが，プロジェクト学習であったり，情報活用能力を生かした学習そのものだと思いますから，そこに関する KPI も必要かなと思うんですけど，多分例はないと思うんですけども，最終的には子供の姿の変容をもって私たちは，教育の効果を示すわけでちょっと一歩先の深掘りしていくことが大事かなというふうに思いました。

○小田委員
　先ほどの佐和委員の話を受けて，少しその子供の変容を見るような，ICT を単純に使うだけではなくてそれをちゃんと見取るような工夫が必要ということですけれどもそこに関連して，先ほどの教員研修の話にも少し関わるんですけれども，KPI の B－2 に関する研修ですね。
　単純に今，この柏市教育情報化推進計画の中の 14 ページに，現在の研修の一覧を示していただいています。
　いずれも重要な情報だと思うんですけれども，先ほどのような子供の変容を見取れるような教員の育成というところで，その研修のあり方自体もやっぱりこう変えていく必要があるのかなと。
　その中で，例えばそのツールの使い方であったりですとか，そうではなくてもちゃんと場に集まることで，より効果のあるような研修っていうところの区分けというか，そういうものがされていたりですとか，そのアプローチの方法ですね，例えば，普段の中でも Q&A で引くことができるとか。
学校の中で 1 人詳しい人がいてその人に聞くことができるとか常に研修という場でなかったとしても，すぐに情報共有がなされるような，そういうふうな日々の中で学びの機会がある。
　そういうものも研修として含めて，数を見ていくっていうことが必要なのかなというふうに感じました。
　ですので，ここで研修は出向っていうものをもう少し広げた遊技して例えば課題ですけど，そういう研修だけでなくって，何かしらのチャットスペースがあったとしたらそこに参加している数であったりですとか Q&A を出すとか，何かビデオが公開されてるとしたらそのビデオを流すとか，もう少し研修という定義を広げても良いのかなというふうに考えた次第です。

2点目としては29ページ目の教育DXの推進のところに関してですけれども。
現在，いただいていた資料のこの推進計画の20ページにDX化チェックリストの現状のデータが示されていました。
そこの中でおおよそできているというふうに回答されていたのがおそらく情報共有とか，そういうものはできているっていうふうに，回答が多かったと思うんですけれども，その情報の収集みたいなところ，その辺りがまだ収集・分析といったところについては，多くがまだ全くしていないですとか一部しているっていうふうな回答がなされていたかなというふうに思います。
今ここのKPIに並んでいる項目を見ますと，情報の共有というところが多いかなというふうに思いますので，さらにその一歩進んだところで言うと，もしかしたらこのC－4のデータ利活用に繋がるかもしれないんですけれども。
教育のデータを収集することによってその教育の質の向上をやっていけるような小さなところからやっていけるような指標っていうのも一つあると良いのかなというふうに感じました。

〇毛利座長
事務局から今まで御意見いただいた中で何かありましたらお願いします。

〇事務局
改めてその目標値の部分で，現状どうだっていうところの分析は確かに必要なところで，それを見据えて，正確なところで設定していくというところはまた必要かなというふうに思いました。
佐和委員の方からもお話がありました，指導の個別化の部分については多く記載があったかと思うのですけども，やはりこれから求められているところでは，学習の成果であったりとか，PBLの課題探求であったりとか，そういった要素もやはり必要になってくると思い，ので，改めてそういったところを，事務局としても検討し，見直し改善の方図っていきたいというふうに考えております。

〇毛利座長
逆井委員から，やはり現状まだ，各学校で，活用に差があるということなので，ぜひこの後，説明があるかもしれませんが，それを全学校で達成できるような手だてっていいますかね，なかなか進まない学校への手だてなんかもぜひいただければなと思います。

(3) 基本的な方針を実現するための方向性 について
〇小田委員
これまでにお話したことも多いですので，追加で多くはないんですけれども，今回も文部科学省の予算にも組み込まれていたように，教員のAIを活用したことによる，業務の改善みたいなものっていうのも，この中に入れてよいというのかなというふうに思いました。
私自身も大学でAIリテラシーの授業を担当しておりますので，大学との連携というところでその辺りで貢献できると大変ありがたいなというふうに思います。

〇佐和委員
同じようにA-7が今後目玉になっていくんだと思うんですね。
プログラミング教育に関しては，現行学習指導要領が始まる前に，柏市は全国に先んじてプログラミング教育を全校で実施したという実績を持っています。
だからそういうもともと基盤を持っている自治体なんだと思うんですね。
それに対してちょっと生成AIについては，国の事業に乗り遅れているわけで，ここをどうするかというのは，これから柏市の課題になってると思うんですが。

この生成AIを利用するというのは，どう考えても子供たちが生きいくうえで，必要なことになっていくんだと思うんで，これをどうやって研究を推進していくかっていうことを考えなくちゃいけなくて，今学校ごとであるとか個人ごとに行っているとこだけどもそれを教育委員会で束ねて推進していくような仕組みづくりをしていく必要があろうかと思います。

○逆井委員
各論に近いことをもうすでに何点か申し上げてしまったのかなというふうに思ってますけども，やっぱり学校のカリキュラムマネジメントですね，あまり頼り過ぎていくっていうよりはある程度市で示していただくような，部分も必要なんじゃないかなというふうに思いましたので，それを1点お願いできればなというふうに思います。

○左口委員
達成のための具体的な取り組みというところで，細かく書いていただいてるんですが，もちろんこの後より具体的な部分で，小中高の繋がりとか研修に関して，今あるものにプラスして，よりそういう連携を図れるような研修をやっていただければ，もう少し見えてくるのかなと。
これだけ見てもちょっと具体的と言っても，まだぼんやりしている部分もあるので，そういった部分を進めていっていただければ，よりわかりやすくなると思うので，その辺り，よろしくお願いします。

○毛利座長
前回色々なご意見いただいて修正をしていただいて，改善されてるところもあると思うんですけどもこの推進計画というのは，もちろん学校の先生に対して示すこともあるでしょうけども，やはりこの後ですね。
市民の皆様のご意見を伺いしたりとか，あるいは公表も市民の皆さんにということで，前回も話したかもしれませんが，柏市のまちづくりの大切な計画の一つになると思うんですね。
なので，あまり字がいっぱいで難しい言葉というよりも，やはり市民の方にもご理解いただけて，常磐線沿線，TX沿線，いろんな自治体ありますけども，こういう教育をしてくれるのであれば，ぜひ柏市に住みたいなっていう，そういうものにしていただけたらなと思うので概要版リーフレットみたいなものを出す予定はありますか。

○事務局
現時点では計画と計画の概要というところでお示しする予定ではあったのですが，毛利座長の方からお話があったように，やはり市民の方に絶対きちんとこういうふうに取り組んでいきますっていう方向性が見えた方が，市一体となってやっていけるというふうに考えましたので，ぜひそういったリーフレットについては，作成検討していきたいなというふうに考えております。

(4) その他
○毛利座長
協議はこれまでですが，まだちょっと時間があるので，少し戻ってもいいですか。
子供たちのKPIのところで例えば，A-2学習に必要なことを端末を活用して集めることができますかというのは，これは，情報収集力，A-3は，情報を整理することができますかなので，情報の整理分析する力とか，A-4は自分の考えをまとめ，クリエイティブに，とかA-5は，伝えることができますか、だからプレゼン力とか，A-6が共同力みたいなとか，A-7がデジタル活用力のような。
市民の皆さんや，学校の先生にお見せするときは，こういう書き方じゃなくても，デジタル表現力とかデジタル活用力とか何かそういう言葉で，何%とするとすごくわかりやすいの

かなっていう気がします。
　ちなみに小中高だとアンケートの問いの文言が違うんですよね。

○事務局
　それぞれの学年・実態に応じて，表現は変えて質問していきたいと思ってます。

○毛利座長
　なので，このさっきの○○力というのを，先ほどの図の中で坂を登っている図があって，坂を登っている上の方に○○力みたいなのを出して，もっと体系化して出せたらいいかなと思うんですけど，その辺り佐和委員いかがでしょう。

○佐和委員
　毛利座長がおっしゃってた，個々の特に児童・生徒に関することは，柏市は，ここ何年か研究しているはずですよね。
　情報活用能力の育成に関する研究をしていて，そして児童・生徒からのアンケート調査を取ってるはずなんですよね。
　だから，ここで言う課題の設定であったり情報の収集だとか，整理，表現，振り返り，改善等に関しては，すでにどこに強みがあり，どこに課題があるかっていうのが分かっているので，分析できるといいかなというふうに思います。
　結局，そういう保護者向け，また市民向けのリーフレットパンフレットを作った時に，柏の子供をどういうふうにしたいかっていうのを一言で言い表せるかっていう大事で，学習指導要領であれば「主体的・対話的で深い学び」になるし，令和の日本型教育であれば「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」というふうになるわけじゃないですか。
　そのあたりを少し考えていくと目指す姿っていうのをみんなが共有できるのかなというふうに感じました。

○毛利座長
　何となく見ていて，先生が教室で子供たちに教えなくちゃいけないみたいな考えがあって，中教審でも言ってますけども，学びの場はもう教室だけではないと。
　柏のすごいところは，先生たちも優秀で頑張ってるけれども，それと同じぐらい大学や，NPO，あとは，先生方の研究会もあるんですよね。
　柏には，現役からリタイヤしたけども，まだまだプログラミングとかICTとか情報技術に長けた人が，自分の力を発揮したいっていう人もいらっしゃるかもしれないなんかそういう人材を活用できたらいいかなって思うのですが，小田委員，どうでしょうかその辺り連携について。

○小田委員
　ぜひ連携できるとありがたいなと思います。
　もちろんその学校の中だけでなく，例えばその地域の子供向けに授業以外のところで，例えばAIに関するワークショップをしたりですとか，私もVRとかもやってますので，VRに関するワークショップをしたりとか，その最先端の技術というのが，なかなかその義務教育の中ですぐに活用するのか難しい時ですね，学校外の場面で大学とも連携をしながら，まずはその体験するっていうところを通して児童も慣れていく中で，使い方みたいなことをわかっていって，徐々にそれが教育の中にも入ってくるみたいな，そういうところの役割を担えると大変ありがたいなというふうに思います。

○毛利座長
　逆井委員いかがでしょうか。

○逆井委員
　小学校に比べれば中学校の活用がさらに一歩遅れてしまっているところもあるんですけれども。
　例えば生成AI部分では，まだ中学校ではほとんど活用が進んでない，一部の興味ある先生方が使っているという状況ですね。
　そういった部分で，ある程度ノウハウがある方から，アドバイスをいただけるようなシステムというか，制度があればいいかなというふうに思います。
　今は各学校に柏市の方ではIT教育支援アドバイザーを配置していただいて，なかなか教員がその研修に出ていくとか，研究に取り組むというのは難しい状況も時間的に難しい状況もありますので，毎週１日なんですが，常駐していただいてますので，それぞれ個別に聞きたいこと知りたいことを，本校は強制的に１時間，支援員さんと１対１で，研修の時間を１時間ずつ持つようにしておりますので，そういったところを通してですね，教員の知識，理解が深まっていくといいかなというふうに感じております。

○毛利座長
　佐口委員お願いします。

○左口委員
　小中学校と高校でまた違うのかもしれないですが，前にも少しお話したように，自分は県立の方にいて，そのあと今は，市立高校にいるので，県立の学校に比べると本当にこのタブレット等の活用は，もうすごく自然に本校の生徒もできている。
　ただ，先ほど学校外での話が出たんですが，家でもタブレット使ってるかというと，ちょっとどうかなと。
　実際自分の子供たちもタブレットを持ち帰ってきていますが，家帰ってきてパソコンのスイッチを入れて，YouTube見るとかそういったことは当たり前にするし，宿題があれば宿題も自分でやろうとするけれど，せっかくあるタブレット，どのぐらい普段家で活用しているかっていうとほぼ充電してるだけになっている。
　家庭での活用というのは，まだまだ進められるのかなと感じる部分がありまして，それは本校の生徒も家で使ってるっていう感じはまだあまりないので，少し自分が受けた研修の中でも，まずは何気なくそのタブレットを使う場面っていうのを増やしていくというところを意識すると，当たり前にタブレットを使う生活なんかは，違和感なくやっていくし，何か困ったら調べものをタブレットにしてみようとかそういったものが一つとってもこう変わっていくのかなっていうのがあるので，学校スタートでいいとは思うんですが，家庭の方にもそういったものが，広がっていって，そういったものの抵抗なんかもなくなり，より大分今回いろいろ目標設定してる部分にも近づいていくのかなっていうふうには感じています。

○毛利座長
　はい，ありがとうございます。
　資料25ページの図を出していただいているのですが，このページが何か魅力的になっていくといいですよね。

○佐和委員
　柏市は，ステップ０から始めたところはいいと思うんですよね。
　いつでもちょっと使うところから始まって，ちょっとずつステップ上がっていくんだよって示してるんですけど，これが実はこのステップ通り上がっているところと，そうでないところの格差だと思うんですよね。
　先週，本校に中学校２年生の卒業生が職場体験に来たんです。

6年生の授業を見て，私たちの頃と全然違うと言っていたんですが，その子たちの時代にも既に端末は使っていたはずなんです。
だけど，もうやり方や使わせ方が違うし，教え込むから学び取る授業に変わっていってるわけだから，大きく変わってきているんですよね。
このステップのどこかで止まってしまっている。
教師が主体で，授業でちょこっと教師の指示のもとに使っているというところで満足して止まっているところと，今ここでは，その先のステップが書かれていて，情報活用能力を活用しての世界になっているわけじゃないですか。
ここの見せ方というか，教職員も十分に理解できてるかなっていうところもあるんで，ここの作りこみをもっとわかりやすい作りこみしていくと，どこを目指していけば良くて，今現状がどこにあるのかというのが見えてくるんじゃないかなというふうに思ったところです。

○毛利座長
ステップ0からステップ2みたいなのは，いるんでしょうか。
来年からの5か年計画だから，なんかもっとこのステップ3より上の方をもっといっぱい書いてもらいたいと思うのですが。

○佐和委員
これは GIGA が始まったときに，みんなが怖がらないように作ったんだと思うんですよね。
もう，フェーズ変わってきてるんで，この先がどこに向かっていくのかっていうのが，毛利座長がおっしゃるような姿なんでしょうね。
そこに教育DXがあったり，生成AIが入ってくるんだと思うんですよね。

○毛利座長
山を登るように，同じ道を一本道で上がるっていうイメージはもう教育にはないのかなって気がするんですね。
だから，そのゴールも一つじゃないし，大谷翔平になる人もいれば，ピアニストになる人もいれば，プログラマーになる人もいるだろうし，昔の高度成長期のように良いサラリーマンになるみたいな，それも一つの選択肢ですけど，もうほぼ全員の人がそういうところを目指してた時代とは違っていて，だから，坂を登る一本道の図ではなくて，色々なところに行って，何か色々な能力を身につけてのような，その辺，逆井委員いかがでしょうか，まだ，学校って，こういうふうに社会一本道で同じ道を目指すみたいな教育なんでしょうか。

○逆井委員
当然そこから脱却をしていかなきゃいけない時代になってきたのかなというふうに思います。
それぞれの教員がですね，そういう認識を持って，改善に取り組んでいけるかっていうことが課題であってその課題を解決する計画が多分この計画になっているんじゃないかなっていうふうに思います。
ただなかなか意識を変えていくのは，かなり骨が折れると今感じているところです。

○毛利座長
佐口委員いかがでしょうか。

○左口委員。
どうしても例えば小学校中学校の先には高校に行くために，高校入試があり，高校生は大学や専門学校とありますが，次のステップに行くために，習得しておきたい力というのを考えたときに，色々なステップを認めてあげたい気持ちと，やっておかなければならないとい

うところと，両方持ってる中で，授業なんかを含めて普段の生活をしているので，理想と現実面とで，ここを求めてはいるけれど，なかなか時間だったりとか，そういったものを含めて難しいテーマがあるけれども，事実かなというふうに思います。

○毛利座長
　こういう情報活用能力とか学力って相反するもの何でしょうか。
　佐和委員どうでしょうか。

○佐和委員
　それは反しないと考えてしますし，そういう研究をしているわけで，これ，多分このステップで示したのは，最終的に探求的な学びにつなげていきたいっていうふうに考えたんですよね。
　だけれども，端末を使っていきなり探求的な学びをするというのは，最初はどうやっていいかわからないだろうから，まず慣れ親しむところからやっていこうと。
　ただ，目指すべき姿は探求的な学びであって，子供が探求的に学ぶということは情報活用能力を身につけそれを発揮するってことで，情報活用能力の学習基盤ですから，それがしっかりしてれば，いわゆる認知能力も上がってくるはずだという考え方だったと思います。

○毛利座長
　その辺りに課題があると思うんですが，きっと学校よりも世の中は，もっと早く変わっていてその辺りどうなんでしょう。

○小田委員
　ずっと企業に勤めていましたけれども，企業にいると，そもそもICTみたいなものっていうのはもうかなり前から使うことができていて，学校ってまだFAXがあるんだとかですね，結構ギャップが大きかったというのはありますね。
　将来どういうふうに世の中変わっていくのかとか，そういうものから逆算して，今どういうサービスを提供しておく必要があるかとか，特に教育にずっと関わってきていましたので未来の子供たちが，どういうふうになって欲しいから今こういうふうなサービスを作ろうとか，話を作ろうとかっていうことを考えていましたので，未来を見る中での今というところをしっかりと意識するっていうところが必要なのかなと思います。
　未来というのは，本当に変化が大きくて，そこが難しい。
　その中でやっぱり自分で学び取っていくとか，その人それぞれのあり方というのが，以前と比べても，大きく変わっていると感じているところですので，基盤となる力として情報活用能力というものが必要かなというふうに思います。

○毛利座長
　一つのポンチ絵があって，この情報推進計画を表すとこの１枚ですみたいな，何かそこに力を入れて良いものができるといいのかなと思います。
　これからまとめるのも大変だと思いますが，ぜひ少しでも良いものに変えられるところがあれば，変えていただければなと思います。
　以上をもちまして本日予定していた協議事項はすべて終了いたしました。
　委員の皆様ご協力ありがとうございました。